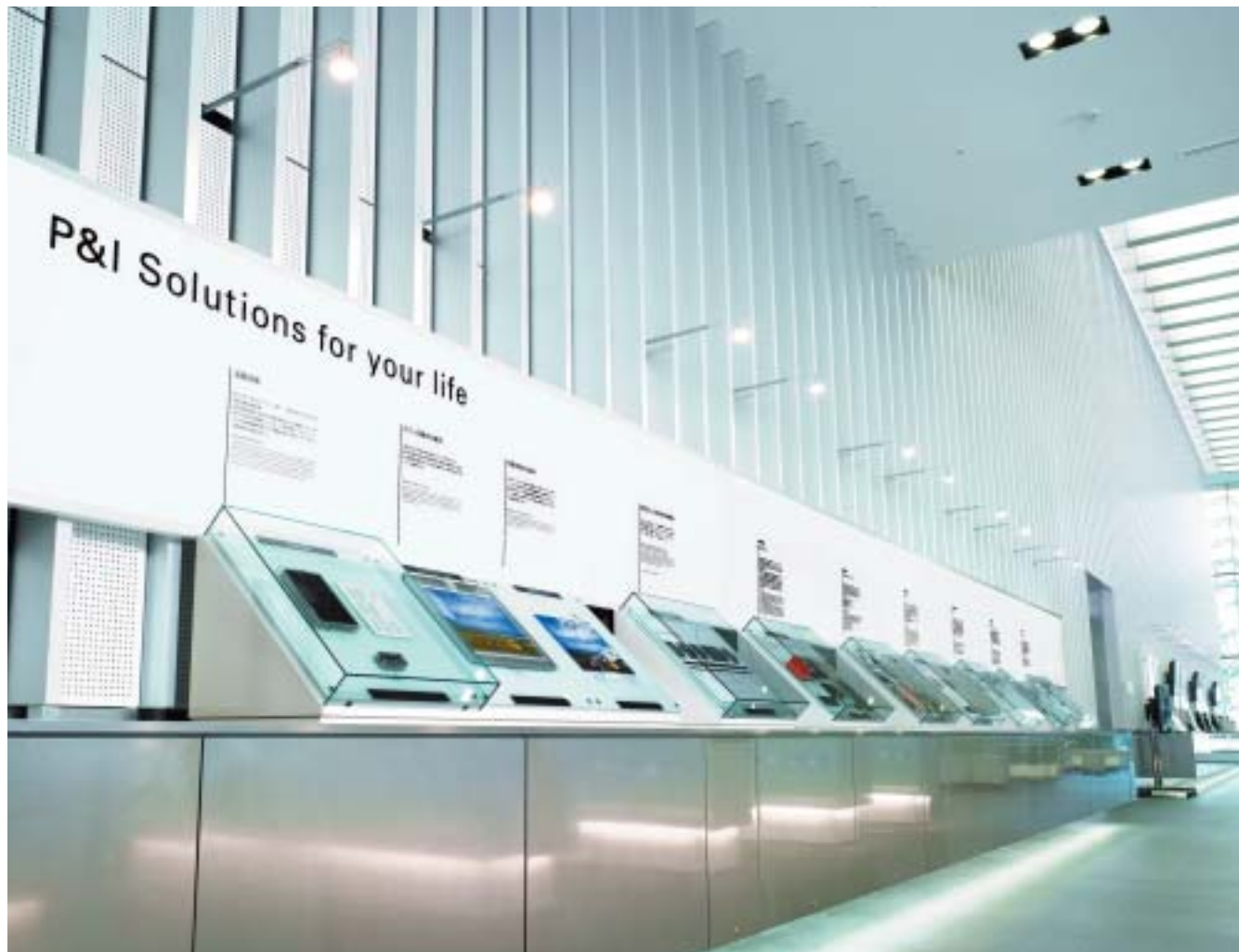


DNP

DNP Report Vol.51

株主通信

特集 新たな歴史を拓く、各事業の戦略



DNP Report Vol.51

CONTENTS

株主の皆様へ	1
特集： 新たな歴史を拓く、各事業の戦略	3
ICカード、ICタグ事業	4
フォトプリント事業	6
ディスプレイ製品事業	8
第1四半期のご報告	10
第1四半期ヘッドライン	12
会社情報／株式の状況	13



表紙：DNP五反田ビル ショールーム

2006年10月、P&Iソリューションを具体的に創出する拠点のひとつとして、DNP五反田ビルをオープン。「全館ショールーム」という構想のもと、DNPグループの幅広い製品・サービスを展示・紹介するさまざまなプレゼンテーション施設を開設しました。今後、この拠点を中心にソリューションビジネスを積極的に推進していきます。

「新たな歴史」をスタートさせる年

DNPは、2006年10月に創業130周年を迎えました。創業以来、私たちは、たゆまぬ技術革新により事業の拡大を図ってまいりました。そして今日、日本の誰もが毎日どこかで、私たちの製品やサービスに触れていると言われるほど、私たちの活動が、生活の隅々に浸透するまでになりました。

この節目の年に、私たちは21世紀ビジョンの実現に向けて「労使共同宣言」を発し、「新たな歴史」のスタートを切りました。成功のカギとなるのは、DNPの遺伝子とも言える印刷技術（PT：Printing Technology）と情報技術（IT：Information Technology）の力、そしてそれを支える研究開発力と企画力、製造力です。世界をリードする2つの技術、PとIを融合させ、顧客の課題をきめ細かく解決していく“P&Iソリューション”が、印刷市場を長期的に力強く拡大させる原動力になると確信しています。

2006年から2007年にかけて、P&Iソリューションの事業拠点のほか、先進的な製品の製造拠点、研究開発施設などが新たに始動しました。DNPの総力を挙げて、顧客が求める優れた製品やサービスを開発し、新たな歴史を創造すべく邁進していきます。

印刷技術と情報技術の融合により、提案型の高付加価値市場を切り拓いていきます。

これまでの長い歴史のなかで、DNPには世界を



代表取締役社長 北島義俊

リードする技術が蓄積され、そしてそれらを常に開発し続け、有効に使いこなす人材が育ってきました。また、3万社を超える顧客企業をはじめ、ステークホルダーの皆様を含めた有形無形の貴重な財産を築いてきました。「新たな歴史」という言葉には、これらの財産をあらためて見直し、まったく新しい観点から、新しい価値を創造しようという想いが込められています。

その実現のために、新たな事業拠点の構築、研究開発の推進などに取り組んでいますが、私たちが質的に変化していくことが最も重要だと考えています。

印刷業界は、もともと受注産業として事業を展開してきましたが、これからはより主体的にアクションを起こし、より積極的に顧客の課題を解決する提案

型企業として活動してまいります。もともと私たちには、オーダーメイドを基本とし、顧客と意見を出し合うことで本質的な課題を引き出して、ともに解決していくという伝統がありました。そして、私たちのDNAとも言える印刷と情報に関するユニークな技術が他分野に応用されたとき、高付加価値型のまったく新しい市場が出現し、事業規模を拡大してきました。

この新市場開拓をさらに推し進めていくため顧客との「対話」を通じて最適なソリューションを提供する提案型企業へと体質を転換していきます。

当社は2001年より“P&Iソリューション”を掲げ、さまざまな取り組みを推進してきましたが、顧客の業務プロセスを変える力を持ったICカードやICタグ、IPS（Information Processing Services）などの事業、新しいビジネスモデルを設計し実施しているフォトプリント事業などで、すでに大きな売上・利益を上げています。2006年10月に竣工したDNP五反田ビルに「P&Iソリューションワークショップ」を開設し、これらの事例の展示やセミナー、討議などを行い、P&Iソリューションの取り組みを加速させていきます。

事業領域拡大の原動力である研究開発をさらに推し進め、一つひとつの課題を解決していきます。

DNPがこれからも長期的で安定的な成長を実現していくためには、研究開発の推進が不可欠です。

今後は、すでに世界トップレベルにあるDNPの印刷技術と情報技術のさらなる深耕をテーマに、情報コミュニケーション、生活・産業、エレクトロニクスの各部門および新規事業分野における研究開発に力を入れていく計画です。2006年度の研究開発費は301億円でしたが、2007年度は、総額で前年度比9.6%増の330億円を見込んでいます。イノベーションにつながる新技術や新素材を他社に先駆けて開発し、顧客の変化を先取りしたタイムリーな新商品を開発する能力も強化していきます。

これから特に注目し、中期的に傾注していく分野としては、印刷技術を使い人工的に培養した細胞などで治療を行う再生医療分野、太陽電池のモジュール用部材開発などのエネルギー分野などがあります。また、認証技術を応用したセキュリティ関連ビジネスや、地球環境に配慮した製品やサービスの開発などにも注力していきます。

短期的な課題としては、エレクトロニクス部門の拡大があります。私たちは、液晶やプラズマの薄型ディスプレイおよび最先端フォトマスクの市場は、これからも大きく成長が予測されています。市場の拡大とそれにとまなう低価格化の傾向を見極めながら、品質の向上とコストダウンに対応できる技術開発、そして機能性に優れた新製品の開発により、競争力を高めてまいります。

新たな歴史を拓く、各事業の戦略

DNPIは、これまで印刷技術と情報技術を核に、事業領域を大きく広げそれぞれの分野で競争優位性を獲得してきました。

今回は、ICカード、ICタグ事業、フォトプリント事業、ディスプレイ製品事業の3分野の成長戦略を紹介します。



ICカード、ICタグ事業

常務取締役

池田 博充



フォトプリント事業

常務取締役

柏原 茂



ディスプレイ製品事業

常務取締役

和田 正彦

安心・安全と利便性を実現するICカード&ICタグソリューション

セキュリティや利便性に対する社会のニーズの高まりによってICカードが急速に普及し、生活やビジネスを支えるインフラのひとつとなりつつあります。私たちは国内トップメーカーとして最良のICカードを提供するとともに、技術力と総合力を活かして、利用者が安心・安全・便利を実感するソリューションを提供し、事業領域を拡大していきます。また、ICカードとICタグを組み合わせた付加価値の高いソリューションを展開し、収益の向上を目指します。

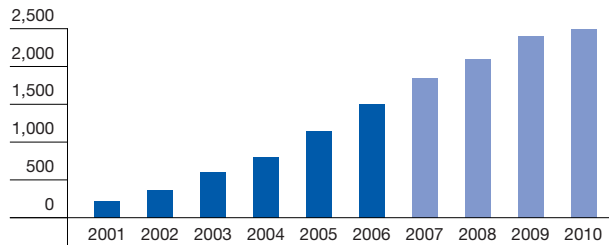
生活者が安心・安全・便利を実感できる

ICカードの導入をトータルにサポート

国内のICカード市場は、これまで市場拡大を担ってきたクレジットや携帯電話などの用途で、今後も安定的に増加していく見込みです。一方、利用者が安心・安全・便利を実感できるツールとして、電子マネーや社員証・証明書などの、より生活やビジネスに密着した用途が拡大していくと考えています。私たちは、今後1枚のカードにより多くの機能が求められるという予測に立ち、このニーズに的確に応えていきます。ICカード導入のコンサルティングから、ICカード発行後にも安全

国内・ICカード市場

(単位: 十万枚)



出所: DNP推定値

にアプリケーションの変更や追加ができるネットワークサービスまで、周辺事業を含めた包括的なサービスを提供していきます。

また、カード製造プロセスを画期的に革新する技術開発にも取り組んでいます。これが実現すれば、従来は考えられなかった幅広い業界で、ICカードの機能を活用していただけるものと期待しています。

オフィスセキュリティを支える社員証ICカード市場の拡大に対応する

近年、個人情報の管理や、財務報告に関する内部統制の強化が重要な課題になっています。DNPIは、このような課題に対応するため、SSFC (Shared Security Formats Cooperation) という企業連合を立ち上げ、ICカードと各種機器を共通フォーマットで連携させる取り組みを推進しています。例えば、社員証ICカードとゲートシステムや監視カメラが連動してつくりだす入退出記録をもとに、パソコン、プリンター、ロッカーなどの機器利用を許可するなど、共通フォーマット

の利用によってオフィスセキュリティの向上を実現します。DNPが事務局を務めるSSFCには130社以上の企業が参加しており、高い評価をいただいています。

DNPはカードの提供に加えて、即時発行プリンターなどの周辺機器、電子認証やパソコン管理ソフトなどのソフトウェアも準備しており、連携企業とともに総合的なソリューションを提供していきます。

ICタグマーケットへの布石

国内のサプライチェーンの効率化に関連してICタグが注目を集め、業界ごとに共通の仕組みをつくっていくための実証実験やプロジェクトが進んでいます。これからはじまる本格的な実用化の時代に先駆け、製造分野での工程管理や資材管理、セキュリティ分野での書類管理やユニフォーム管理などにICタグを導入する事例が着実に増えてきています。私たちは、微細加工技術を用いたICタグの開発・製造にとどまらず、情報処理技術を活かした各種システム開発やサービスの運用まで、幅広いビジネスを展開しています。

人を認証するICカードと、モノを認証するICタグの両方に積極的に取り組んでいることが、私たちの大きな強みになっています。今後、この強みを活かしてサプライチェーンやオフィスセキュリティなどの企業業務プロセスでの利用のほか、例えば、ICタグの付いた商品と、クレジットカードや電子マネーなどの決済方法を結びつけた新しいセールスプロモーション手法の創出など、事業の拡大を図っていきます。



ICカードを活用したパソコン管理システム



ICタグ実験工房

ICカード、ICタグ事業担当
常務取締役 池田 博充



「拡写真」による新市場の創造とグローバルな市場展開

私たちは、これまでのフォトプリント事業で培った強みをさまざまな事業分野に応用・発展させ、新市場の創出も含めてフォトプリント事業をさらに拡大していきます。この戦略を「拡写真」と呼んでいます。DNPグループの総合力、急成長する昇華型熱転写記録材のNo.1シェアを支える技術力、そして長期的な成長が見込めるグローバル市場への展開力を強みとして、持続的で安定的な成長を実現します。

デジタルフォトプリント事業を拡大する

いま、デジタルフォトプリントの市場が急速に拡大しています。カメラ付き携帯電話やデジタルカメラの普及により、ユーザーがシャッターを切る回数が飛躍的に伸び、写真をプリントしたいというニーズも増えています。そして、家庭用プリンターの普及により、一時は減少傾向にあった写真店でのプリントが、耐久性や発色性といった品質の向上、プリントスピードの高速化などにより、再び急増しています。

私たちはこのニーズに対応するため、北米では大手ドラッグチェーンに対して、昇華型ドライミニラボ（NEXLAB1000）などのプリントシステムを提供し、そのサポート業務を実施しています。国内では、顧客が自分でプリントできるKIOSK端末型セルフプリントシステム「PrintRush」を開発し、その販売を行う株式会社DNPプリントラッシュを設立しました。1枚3秒の高速プリントが可能な「PrintRush」はご利用客の人気も高く、今後、導入台数をさらに拡大していきます。

国内外の製造・販売・サービス体制を整備・拡充する

私たちはこれまで、日本国内だけでなく、海外でも主に北米や欧州を中心に製造・販売・サービス体制を整備してきました。今後はDNPの独自ルートに加え、2006年に事業譲渡を受けた旧コニカミノルタグループの顧客との関係を継承し、より強固な事業体制を構築していきます。

海外各国では、デジタル化の進展度合いや企業のサポート体制などの違いにより、フォトプリントに求める顧客のニーズが多様化してきています。私たちは、グローバルな事業展開力を強みとして、今後いっそうの普及が見込まれるデジタルフォトプリント市場において、世界規模でシェアの拡大を進めていきます。

「拡写真」により新市場を創造する

私たちのフォトプリント事業は、世界的に見て、きわめてユニークなポジションを占めています。

ひとつは、銀塩と昇華型の両方式への対応が可能な

ことです。プリントメディアを提供するだけでなく、両方式に対応したカラーマネジメント技術やサービスなども提供していきます。

もうひとつは、「拡写真」という戦略と、それを実現させるDNPの総合力です。「拡写真」は、これまでのフォトプリント事業で培った強みを核として、さまざまな事業分野に応用・発展させ、新市場の創出も含めてフォトプリント事業のさらなる拡大を図っていく戦略です。例えば、DNPがトップシェアを占めている写真入りIDカードの普及を進めることで、個人認証の精度を高め、オフィスや各種施設でのセキュリティ強化を図ることができます。このほか、販促用途で写真を利用したギフトカードを提供したり、編集・出版機能と連動してフォトブックを作成したりするなど、さまざまな展開が可能です。これは、DNPが世界をリードする総合印刷会社であり、あらゆる業種の企業と関係を結び、企画・製造・販売・運用の一貫体制を構築していることによって、はじめて実現できるものです。これからも、私たちだけが提供できる独創的な製品やサービスを開発し、新しい市場を創造していく方針です。

KIOSK端末型セルフプリントシステム「PrintRush」



昇華型熱転写記録材



デジタルフォトプリント

フォトプリント事業担当
常務取締役 柏原 茂



薄型ディスプレイ市場での競争力強化と、次世代ディスプレイの開発

インクジェット方式による顧客基盤の拡大と、高性能化、低コスト化に貢献する周辺部材開発による収益基盤の拡大を柱に、伸張する薄型ディスプレイ市場での収益力強化を図ります。また、次世代ディスプレイの分野では、有機ELディスプレイを中心に事業領域の拡大を推進します。

インクジェット方式の優位性を活かし、積極的に顧客基盤の拡大を推進

カラーフィルター市場は、いま、大きな転換期を迎えようとしています。最先端の主力製品が第8世代サイズ以上の生産に移行するにともない、インクジェット方式への転換が必要となり、製造に求められる技術力もこれまでになく高度化していきます。これまで、従来方式でカラーフィルターを内製していたパネルメーカーにとっては、新たにインクジェット技術を開発するか、外販のカラーフィルターを調達するか、選択することとなります。

こうした動向の変化に対して、現在DNPだけが量産の実用化に成功しているインクジェット方式の優位性を訴求して、顧客基盤の拡大を図っていきます。インクジェット方式は、初期投資を抑えた製造設備、大型マスクを使用せず必要な箇所だけに材料を塗布することによるコスト競争力に強みがあります。加えて、よりピュアな色が表現できる材料面での優位性、一括プロセスによる優れたカラーマネジメント適性などのメリットもあります。

今後の投資計画については、パネルメーカー各社の個別ニーズに対して、柔軟に対応していく方針です。さらに、カラーフィルターと位相差フィルム、偏光板の一体化など、製品の高付加価値化を進めることで価格下落にも対応し、利益率の改善を目指していきます。

高性能化、低コスト化に貢献する周辺部材開発により収益基盤を強化する

ディスプレイ分野には、パネルの高性能化や低コスト化に関する多くのビジネスチャンスが広がっていると私たちは考えています。

私たちが周辺部材としてすでに供給している製品も多く、例えば、液晶ディスプレイ用の反射防止フィルムでは70%のシェアを、プラズマディスプレイ用のコントラスト向上フィルムではほぼ100%のシェアを占めています。このほか、液晶ディスプレイ用フォトマスク分野では、特に大型パネル用にDNP製のハーフトーンマスクの採用が進んでおり、1年後に25%のシェア獲得を目指します。また、バックライトの周辺部材を一体化した製品や、複数の層に分かれていた機能性フィル

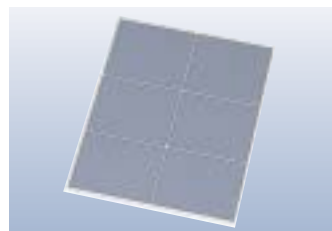
ムを一体化した複合フィルムなど、高性能化、低コスト化を追求し、パネルメーカーの期待に応えていきます。

また、私たちのナノサイエンス研究センターでは、印刷加工技術と高度なナノ材料技術を組み合わせた高機能製品の開発を行っています。幅広い最先端分野の研究を通じて、新たな部材と高機能化の開発を進め、収益基盤の拡大に努めます。

有機ELディスプレイでは新たなビジネスモデルに立って 事業化を推進する

次世代ディスプレイとして大きな期待が集まる有機ELディスプレイに対して、私たちは、広い範囲で製品を提供していくことが可能です。現在、より自然な色に調光するためのカラーフィルターや、製造過程で使用するマスクを提供しているほか、今後、発光効率を向上させるレンズフィルムも展開する予定です。

有機ELディスプレイは、自発光のため見やすく、構造が比較的単純であるという特長から幅広い用途での普及が期待されており、今後さらに市場規模が拡大するものと予想しています。私たちは、カラーフィルターなどの部品供給にとどまらず、モジュール化したパネルの提供など、新しいビジネスモデルに基づいた事業拡大のチャンスとして積極的な製品開発に取り組んでいます。今後、さらに各メーカーとの連携を深め、新たな生産体制の構築なども進めていきます。



液晶カラーフィルター



有機ELディスプレイ



ディスプレイ製品事業担当
常務取締役 和田 正彦

連結業績の概況

(単位：億円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
売上高	3,856	3,551
営業利益	173	225
経常利益	197	240
四半期純利益	89	127

連結業績の予想 (平成20年3月期通期)

(単位：億円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
16,600	870	915	495

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期)73円06銭(予想年間期中平均株式数による)

ポイント解説

売上高は、情報コミュニケーション部門で、金融業界向けICカードが大幅に増加し、生活・産業部門ではペットボトル用無菌充填システムや薄型ディスプレイ向け光学フィルムが増加しました。エレクトロニクス部門においては、液晶カラーフィルターが第8世代の生産も寄与し、好調に推移しました。この結果、売上高は3,856億円(前年同期比 8.6%増)となりました。

営業利益は、生活・産業部門で原材料価格上昇の影響を大きく受けたことや、エレクトロニクス部門における受注単価の下落により、173億円(前年同期比23.2%減)となりました。

四半期純利益は、89億円(前年同期比29.4%減)となりました。

セグメント別の状況

印刷事業



ICカード



プラズマディスプレイ用
電磁波シールドフィルム



液晶カラーフィルター

清涼飲料事業



北海道コカ・コーラボトリング株式会社

情報コミュニケーション部門

売上高	1,553億円
前年同期比	1.3%減
営業利益	89億円
前年同期比	18.5%減

生活・産業部門

売上高	1,386億円
前年同期比	18.1%増
営業利益	83億円
前年同期比	6.8%減

エレクトロニクス部門

売上高	793億円
前年同期比	18.8%増
営業利益	26億円
前年同期比	42.5%減

清涼飲料部門

売上高	157億円
前年同期比	0.4%減
営業損失	3億円
前年同期は	4億円の営業損失

連結貸借対照表 (平成19年6月30日現在)

(単位：百万円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
資産の部		
流動資産	711,886	759,514
固定資産	904,950	862,444
有形固定資産	642,156	584,026
無形固定資産	26,883	22,439
投資その他の資産	235,909	255,978
資産合計	1,616,836	1,621,958
負債の部		
流動負債	439,057	416,673
固定負債	120,019	115,975
負債合計	559,077	532,648
純資産の部		
株主資本	986,970	1,014,289
資本金	114,464	114,464
資本剰余金	144,898	144,909
利益剰余金	824,497	812,392
自己株式	△ 96,889	△ 57,476
評価・換算差額等	43,390	48,072
その他有価証券評価差額金	39,964	47,624
繰延ヘッジ損益	△ 8	△ 8
為替換算調整勘定	3,434	455
少数株主持分	27,397	26,947
純資産合計	1,057,759	1,089,309
負債及び純資産合計	1,616,836	1,621,958

連結損益計算書 (平成19年4月1日から平成19年6月30日)

(単位：百万円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
売上高	385,665	355,118
売上原価	318,865	287,043
売上総利益	66,800	68,074
販売費及び一般管理費	49,453	45,494
営業利益	17,346	22,579
営業外収益	3,930	3,172
営業外費用	1,570	1,749
経常利益	19,707	24,002
特別利益	7,531	128
特別損失	8,294	1,512
税金等調整前四半期純利益	18,944	22,619
法人税、住民税及び事業税	3,268	4,158
法人税等調整額	6,844	5,673
少数株主利益(△損失)	△ 145	69
四半期純利益	8,977	12,718

4月



「ルーヴル-DNPミュージアムラボ」第2回展開催

LOUVRE-DNP
 MUSEUM LAB

DNP五反田ビルに開設したルーヴル美術館との共同プロジェクト「ルーヴル-DNPミュージアムラボ」では第2回展「古代ギリシアの小像、タナグラの優美」を開催しました。

通称タナグラと呼ばれる古代ギリシアの女性像を中心に展開。新たに用意した観賞システムを提供し、4月26日から9月8日までの会期中に約6,000名の来場者がありました。

第3回展のご案内



《うさぎの聖母》 聖なる詩情

第3回展ルーヴル-DNPミュージアムラボは、ヴェネツィア派自然主義の完成形といわれる、ティツィアーノの《うさぎの聖母》が登場します。

《聖母子と聖カテリナと羊飼い》 通称《うさぎの聖母》
 ©2007 Musée de Louvre / Angèle Dequier

ルーヴル所蔵の貴重な作品を実際にご自分の目でご覧になりながら、ミュージアムラボならではの美術体験をお楽しみください。

会場：DNP五反田ビル1F
 会期：2007年10月27日(土)～2008年3月1日(土)
 観覧には予約が必要です(観覧は無料)
 予約申込先：<http://museumlab.jp>

5月



オリジナル木目化粧材「WSシリーズ」のデザインラインナップを拡充

DNPは、マンションを中心とした住宅市場向けの内装用化粧材で、国内トップシェアを誇っています。多様化する生活者の嗜好に対応するために、住宅内装用化粧シート「WS サフマーレ」、フローリング用高機能化粧シート「WS-F」、玄関ドアなどに使用される

化粧鋼板「WSエリオ」の3種を全面リニューアルし、最新のデザイン柄への改訂とデザインラインナップを大幅に拡充しました。これによりさらなるシェアアップを図り、WSシリーズ全体で、初年度50億円、2010年には70億円の売上を目指していきます。

6月



半導体フォトマスクの新会社「DNPファインエレクトロニクス相模原」が営業を開始

DNP、NECエレクトロニクス、NECファブサーブの3社間で交わされた事業協力に関する合意に基づき、NECファブサーブより、フォトマスクの製造・販売事業を譲り受け、新会社「株式会社DNPファインエレクトロニクス相模原」として営業を開始しました。

新会社では、NECエレクトロニクスをはじめとする半導体メーカーにフォトマスクを供給していきます。さらに、フォトマスクの開発および製造体制を強化し、トータルコストの低減を図りながら、事業の一層の強化と拡大を図っていきます。

会社概要

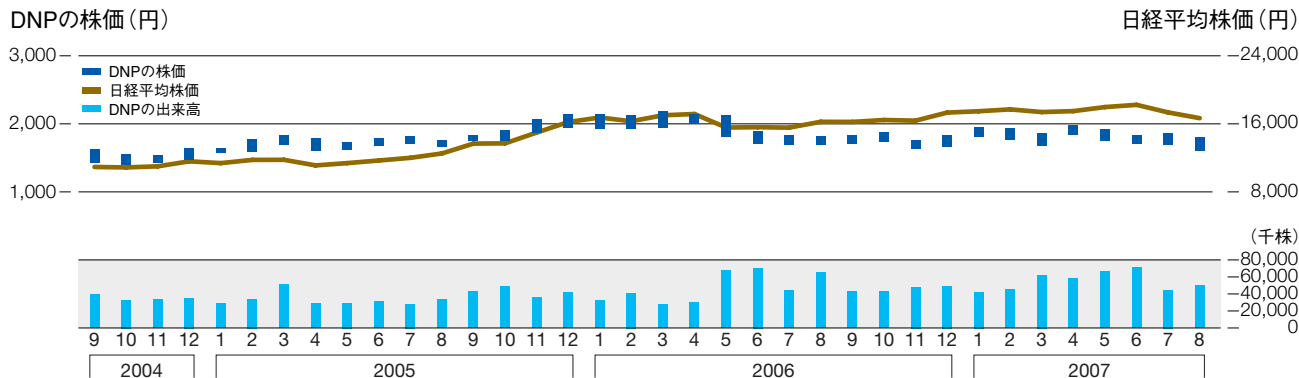
商号 大日本印刷株式会社	創業 明治9年(1876年)10月
英文社名 Dai Nippon Printing Co., Ltd.	設立年月日 明治27年(1894年)1月19日
本社所在地 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 電話 03(3266)2111 ダイアルイン案内台 URL http://www.dnp.co.jp/	資本金 1,144億6,476万円

株式の状況

Stock Information

発行済株式総数 730,480,693株

株価/出来高推移



自己株式の取得に関するお知らせ

平成19年3月22日開催の取締役会の決議に基づき、自己株式の取得を実施いたしました。

取得期間	平成19年3月24日から平成19年7月24日まで
取得株式数	25,000,000株
取得総額	45,857,311,000円

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
名義書換取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
同事務取扱所 (郵便物送付先) (電話お問合せ)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	東京・大阪
公告方法	電子公告により行います。 (当社のホームページ http://www.dnp.co.jp/jis/ir) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

お知らせ

単元株式数(1,000株)に満たない株式をご所有の株主様が、当社に対しその単元未満株式の数と合わせて1単元になる数の株式を買増請求することができる「単元未満株式の買増制度」を導入いたしております。

また単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いいたしております。

お手続きをご希望の株主様は、当社株主名簿管理人(みずほ信託銀行)へお問い合わせください。

